



Eiche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-518-1 清和会第2ワールドナースィングホーム

Tel 047-461-9111 Fax 047-461-7010

2012年 新春講演会開催

講演する子安先生



先生と平尾名誉会長



本年の新春講演会は2月25日(土)、千葉市生涯学習センターに子安美知子早稲田大学名誉教授を迎えて開催された。

子安美知子氏は1956年東京大学教養学科ドイツ科卒業、1961年同大学院比較文化・比較文学博士課程卒業、長年に亘って早稲田大学教育研究所教授を勤められた。ドイツ文学、女性文学、児童文学、教育論で著名であるが、なかでも児童文学作家として世界的名声を博し、「モモ」、「はてしない物語」等でわが国でも親しまれているミヒヤエル・エンデ(1929-1995)の作品の研究者及び紹介者として良く知られている。またルドルフ・シュタイナーの思想に深く共鳴する子安氏は、「あしたの国・シュタイナー学園・シュタイナーこども園」(千葉県長南町)における教育にも深く関与しておられる。現在はこのNPO法人「あしたの国まちづくりの会」理事を務められ、当会の会員でもあられる。

この日外部からの参加者も含め、86席の会場はほぼ満席、参加の高校生を交えた質疑応答もあり、講演後の懇親会も含め、和気藹々の新春に相応しい講演会であった。なお講演の記録は木戸芳子会員にお願いした。

千葉県日独協会二〇一二年新春講演会

早稲田大学名誉教授 子安美知子先生

「ミヒヤエル・エンデと二十一世紀 — 今、なぜ、あのベストセラー作家? —」

『ミュンヘンの小学生』(中公新書、毎日出版文化賞受賞)の著者、エンデ研究者としても広く知られた子安美知子先生のご講演は、活発な質疑応答も含めて大変意義深いものでした。ここに、先生ご自身がシュタイナーの思想に寄せる思いと、十年におよぶエンデとの深い親交から溢れ出す珠玉の内容の一部をご紹介します。

「はじめに—ご縁のことなど」

歳を重ねてくると、物事や人に「縁」を深く感じ、それを噛みしめることが多くなると仰る先生とドイツとの関係は、ご専攻がドイツ文学であり、千葉とのご縁は何よりもご自身が十年前に長生郡長南町で「あしたの国まちづくりの会」を設立したことにあります。「あしたの国」は東洋を意味する通常のドイツ語「Morgenland」ではなく、エンデの作品『モモ』に出てくる「Morgen-Land=一日だけ未来にある国」からもらったものなのです。こうして千葉・エンデ・ドイツというご縁がピタッと結びつくわけです。

もう一つ、演題の「ミヒヤエル・エンデと二十一世紀」の「と」についてです。ファンタジー文学、児童文学と言われているのですが、子ども向きばかりではないエンデの文学について、昨年三月十一日以来、関心が高まっています。先生曰く、それは読書をおして未来に気持ちが向いてくる「秘密」すなわち、エンデが未来予測的なことを言い残したからではないか。

彼の対談やインタビュー、作品『ハーメルンの死の舞踏』や『鏡の中の鏡』には未来の世界に対する警告や予言的なものが潜んでいて、環境破壊、原発の問題に繋がっています。

「生い立ち」

エンデが一九二九年に生まれ育つ頃はナチ台頭や戦争の影が色濃くあるも、家族や親友の仄かな光に包まれ混然とした中に、風変わりな美男子ヘルムート伯父がいました。(裏へ)

—今後の主な催し物案内—

1. ドイツ旅行事前勉強会

旅行に参加されない会員のご出席も歓迎します。

第1回 4月26日(木)

15:30~17:30

挨拶: 宗宮好和会長、千葉県総合企画部国際課
旅行の要領と見所: 近畿日本ツーリスト、
橋口昭八副会長

18:00~20:00

旅行結団式・懇親会: 「和民」船橋南口店、
会費 3,500 円/一人

第2回 5月11日(金) (金曜日につきご注意ください)

15:30~16:20 「チュービンゲン—歴史と文化—」

講師 宗宮好和会長

16:30~17:30 「ドイツの森・グリムの森」

講師 大野寿子東洋大学文学部准教授

第3回 5月17日(木)

15:30~17:30 「中世への旅」

講師 平尾浩三名誉会長

場所: 船橋市中央公民館 (JR・京成線 船橋駅下車
南口より徒歩5~7分) Tel 047-434-5551

資料代: 全3回で1,000 円/一人

申込み: 同封のはがきで4月24日迄にご返信下さい。

(右欄へ)

訃報

会員駒田敬一氏には2月17日に食道癌の為、逝去されました。享年77歳。氏は平成22年に入会され、当会の活動に多大なご協力を頂きました。茲に謹んでご冥福をお祈り致します。

2. 2012年 年次総会

日 時: 5月19日(土) 14:00~17:30

場 所: フローラ西船 Tel 0120-262427

(JR 総武線・武蔵野線西船橋駅下車南口より徒歩3分)

式次第:

14:00~14:50 総会

14:50~16:10 記念講演と対話(日本語)

・講師 ドイツ大使館参事官ピット・ヘルトマン文化部長

・演題 「ドイツの現在と今後の展望
—日独両国の共通の課題—」

16:10~17:30 懇親会 会費5,000円

申込み: 同封のはがきで4月24日(火)までに
ご返信下さい。

◎平成24年度年会費の納入を御願ひ致します。年会費の郵便振込み用紙を同封いたしますので、早目にお振り込み下さい。

郵便口座記号番号: 00180-4-30279

彼は、一九〇〇年代初頭に危険思想の持ち主と見なされていたR・シュタイナーが「見えない世界を認識する方法」を説く講演などをこっそり聞きに行く人でした。生涯独身で、エンデ四十五歳の頃から二人で秘密文字を考案して文通するなど、甥っ子ミヒャエルに目を掛けていました。その後学校の成績は思わしくはなかったものの、エンデ特有の「ひらめき」が作家への道を引き寄せる縁には、この伯父との出会いが欠かせません。一九四三年夏、エンデが彼をハンブルクに尋ねたとき連日の大空襲で、街の壊滅的な被害を目の当たりにしました。その後集団疎開で乱暴狼藉組のエンデと、人生の意味や文学・哲学論を交す組のペーターとの出会いは、まさに詩人エンデに繋がり、後の親友ペーターは、エンデの伝記まで書くことになりました。彼が詩を書いているのを見て、エンデも「詩でも書いてみるか」と書き出したのだそうです。エンデが遭遇した大空襲など、内面の目で見えた世界が言葉となって進る、格調高い祈りのような詩です。

お、主よ/限りない悲惨が人びとを襲う/それが御身の意によるのなら/お、主よ/憎悪が罰の鞭を振り/窮乏が姿を現して/煙立つ瓦礫の中に/支配者の玉座をしつらえる/それが御身の意によるのなら(以下略)

先生曰く、この詩を見て驚いた母親がタイプ打ちしたらしい、エンデ詩作の始まりです。先生が注目なさったこの詩の「読まないで」という添え書きを、読んで欲しかったからかとエンデ自身が回想しています。戦後は「問題児」ゆえ名門高校を退学、シュタイナー学校へ転校。しかし、「試験知らずの学校生活」で文学議論に熱中した文学青年エンデです。

「日本とのかかわり」

先生曰く、気さくな人柄エンデとの出会いは一九八五年七月二十日、その後、一九九五年ゲーテの命日にあたる八月二十八日、彼が亡くなるまでの一〇年間親交は続きました。一九八九年『はてしない物語』の翻訳者の一人佐藤真理子氏との再婚や「エンデ父子展」は印象深いものです。エンデの父親、シュルレアリスムの画家エドガー・エンデが一九六五年に亡くなって二十年が経ち、「父子展」の話が出たものの、自分の名前で父親を売り出すのは潔しとせず他国では断り続けていたのですが、あえて「日本のためなら」と実現した「父子展」のミヒャエルに関する展示物は、信州の黒姫童話館の関係者の願いが叶い、同館に納められています。

エンデの葬儀は、彼が亡くなる前に子安先生に託したメモ「赤いバラで葬って」「モーツアルトの『アヴェ・ヴェルム・コルプス』を奏でて」「エンデの作品『ゴッゴロリー』のフィナーレも演奏して」「レンツ牧師に依頼」などの願ひどおりに執り行われました。ミュンヘンの森のお墓には五十冊以上の本をかたどった石がちりばめられ、この中に死を「恐れるなかれ」という言葉が刻まれています。真理子夫人の依頼を受けて真言宗僧侶の資格者ヨープスト氏(注:早稲田大学名誉教授)がエンデに贈った戒名は「密厳院終山大雄居士」、エンデと日本との縁にこれからも終わり無き広がりが見えて参ります。子安美知子先生のご講演に感謝。

(東京音楽大学教授 木戸芳子)